

## 輪王寺ご本尊

日光山は神聖な山とされている。特に太郎山、如法山、男体山の三山は、輪王寺に祀られている三仏の現れと言われている。太郎山には馬頭観音、如法山には阿弥陀如来、男体山には千手観音が祀られている。三仏堂の高さ約 7.5 メートルの金箔を貼った木像がそれぞれの神を表している。

三仏堂とは「三仏の堂」という意味で、臨王寺の三大本尊と第二の三尊、釈迦牟尼、薬師如来、阿弥陀如来にちなんで名付けられた。釈迦牟尼は過去、薬師如来は現在、阿弥陀如来は未来を連想させる。

天台宗では、馬頭観音は悟りの守護者、阿弥陀如来は、仏教の重要な経典である法華経に基づく修行の中心である。主要な修行法の一つが、90 日間、阿弥陀如来像の周りを歩きながら瞑想するというもので、臨王寺の常行堂で行われている。千手観音の千手には、衆生を助けるための道具や道具がたくさん納められている。